様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　２１　年　５　月　１２　日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：平成 18～21 年度
課題番号：１８４０１０２１
研究課題名（和文）　近世・近代ペルシア語文化圏における言語・民族・国家形成

研究課題名（英文）　The formation of Languages, nations and states in Modern Persianate Societies.

研究代表者
近藤　信彰（KONDO Nobuaki）
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
研究者番号　９０２７４９９３

研究分野：　人文学
科研費の分科・細目：東洋史
キーワード：国民国家、言語改革、文化交流

１．研究計画の概要
１)、前近代史で近年注目されている「ペルシア語文化圏」という概念を踏まえ、その近世から近現代（16～20 世紀）における変容を明らかにする。近世はペルシア語文化圏の盛期であり、文化的価値観を共有するイラン、インド、中央アジア、アナトリアで盛んな文化交流と人の移動が見られた。このペルシア語文化圏において、近代以降の、言語や民族が形成され、国民国家が建設されるのであるが、こうした共通の文化はどのように変容し、再定義されたのかを示す。
2) 具体的には､以下の３点を海外調査によって、達成する。①ペルシア語文化圏関係の資料の収集、②現地研究者との交流と意見交換、③ペルシア語とその周辺言語の実態調査.
①は世界最先端の研究を遂行するためには、日本に所蔵されている資料のみでは不十分であり、現地等で資料を発掘する必要がある。②はペルシア語文化圏に関する現在の現地の見方を明らかにするために、必要である。しばしばナショナリズムが強く反映される場合があるが、そのナショナリズムも研究の対象である。③は諸言語へのペルシア語の影響、ペルシア語内の方言差を知るために必要である。

２．研究の進捗状況
　過去、３年間で、研究分担者、連携研究者のべ 16 回海外調査に派遣した。内訳はイラン４回、インド４回、トルコ３回、中央アジア１回、中国１回、欧米３回である。それぞれが専門とする地域のペルシア語文化に関する貴重な資料が収集されるとともに、研究者との交流を通じて、各地のペルシア語文化とその歴史の扱いが明らかになりつつある。言語の実態に関しても、知見が深まりつつある。国際学会等での報告、国際ワークショップの開催を通じて、その成果も発表されつつある。

３．現在までの達成度
②おおむね順調に進展している。
（理由）
研究分担者、連携研究者が、各地へ海外調査に派遣し、資料の収集、研究者との交流、言語の調査に従事し、一定の成果を挙げてきた。具体的な成果は多数の論文、図書、世界各地の国際学会での報告等で、発表されつつある。また、2009 年３月には、モンゴル期に重点をおいた関連する国際ワークショップも開催されたため。

４．今後の研究の推進方策
最終年度にあたっては、従来の研究活動を継続するとともに、これまで、やや手薄であった中央アジアに関する調査を遂行する。また、これまでの成果を出版物の形でまとめることに努める。具体的にはアジア・アフリカ言語文化研究所の共同研究プロジェクトと連携しつつ、国内研究会を開催し、論集の出版の準備を行う。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15　件）
1. 中西竜也「清初の中国ムスリムにおける「ハナフィー派への帰属」についての再検討

ーー納家 営清真寺アラブ語碑文の分析から」『中国ーー社会と文化』21（2006）、309-331
2. 近藤信彰「ワクフと私的所有権――チャハールダフ・マアスームのワクフをめぐって」『アジア経済』48-6(2007) 9-28.
3. Morimoto, Kazuo "Putting the Lubab al-Ansab in Context: Sayyids and Naqibs in Late Saljuq Khurasan." *Studia Iranica* 36-2(2007) 163-183.
4. 二宮 文子「デリー・サルタナト期のシャイフルイスラーム―サルタナト政権のスーフィー登用に関する一考察」『西南アジア研究』66（2007）, 1-17
5. Nobuaki Kondo "Shi'i 'Ulama and Ijaza during the Nineteenth Century,"*Orient* 44(2009) 55-76.

〔学会発表〕（計 13 件）
1. 真下裕之「インド洋海域史における海港都市：17 世紀前半におけるインド西海岸の海港都市スーラトの一側面」国際学術シンポジウム「東アジア海港都市の共生論理と文化交流」 2008/11/27 韓国海洋大学校(釜山)
2. Sugahara Mutsumi, "Tazkira-yi Awliya in the Uyghur script" International Workshop, Studies on the Mazar Cultures of the Silk Road. 2008/8/27. 新疆大学, ウルムチ
3. Nobuaki Kondo, "Shi'i 'Ulama and Ijāza during the Nineteenth Century," 2008/8/2 The Seventh Biennial Conference of Iranian Studies, Hotel Park Hyatt Toronto
4. Morimoto, Kazuo, "Al-Samhudi an 'Ilm and Nasab: A Reading of the Jawahir al-'Iqdayn." Middle East Studies Association 41st Annual Meeting, 2007/11/17, International Convention Center, Montreal.
5. Morikawa, Tomoko, "Pilgrimage of the Dead – 'Transfer of Corpses' from Qajar Iran to the 'Atabāt." 6th European Conference on Iranian Studies, 2007/9/21, Austrian Academy of Sciences, Vienna

〔図書〕（計 4 件）
1. 川口琢司・長峰博之編 菅原睦校閲, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所『チンギズ・ナーマ』, 2008, 186.
2. 菅原睦 神戸市看護大学『ウイグル文字本『聖者伝』の研究Ⅱ日本語訳および註』2008. 406p.
3. Hiroyuki Mashita ed. Routledge *Royal Asiatic Society Classics of Islam II. The Muslim World 1100-1700: Early sources on Middle East History, Geography and Travel*. 2007. 8vols.
4. Mansur Sefatgol & KONDO Nobuaki, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, *Persian Historical Epistles from Iran and Mawara an-nahr: The Safavids, the Uzbeks, and the Mangits*. 2006. 593p.

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕